

都市間比較による鎌倉市の特徴の把握

平成27年10月14日

目次

1. 特徴の把握の方法	1
2. 都市間比較による鎌倉市の特徴の把握	2
①就業、産業構造の状況に関する特徴	
②出生力に関する特徴	
③生活基盤に関する特徴	
3. 論点別の課題の整理	5
4. 特徴が類似した都市との比較	9
①女性の高学歴化が進んでいる都市との比較	
②東京都からの転入が大きな割合を占める都市との比較	
③昼夜間人口比率・吸引力が類似している都市との比較	
④まとめ（類似都市との比較からのヒント）	
(参考) 比較都市のプロフィール	19

1. 特徴の把握の方法

1. 都市間比較の目的とフロー

- ▶ 鎌倉市の現在の“立ち位置”を明確にしなが、**「出生率の変化」**や**「社会移動」**に影響を与える要素を把握するために、本市と類似する都市や潜在的なライバル都市を抽出し、都市間比較を行う。
- ▶ 併せて、個々の指標において優れた特徴を有する都市に関しては、ベンチマーク（参考とすべき水準点）として捉え、先行的な取組事例等を調査する。

- ① 鎌倉市の“立ち位置”の明確化
- ② 「出生率」「社会移動」の要因把握
- ③ 参考とすべき先行的な取組の把握

県内各都市との比較による基礎調査
(第1回懇話会資料)

ランキング上位都市等との比較で立ち位置と特徴を把握

類似した特徴を持つ都市と比較し、出生率の要因などを把握

優れた特徴を持つ都市の先行的な取組を把握

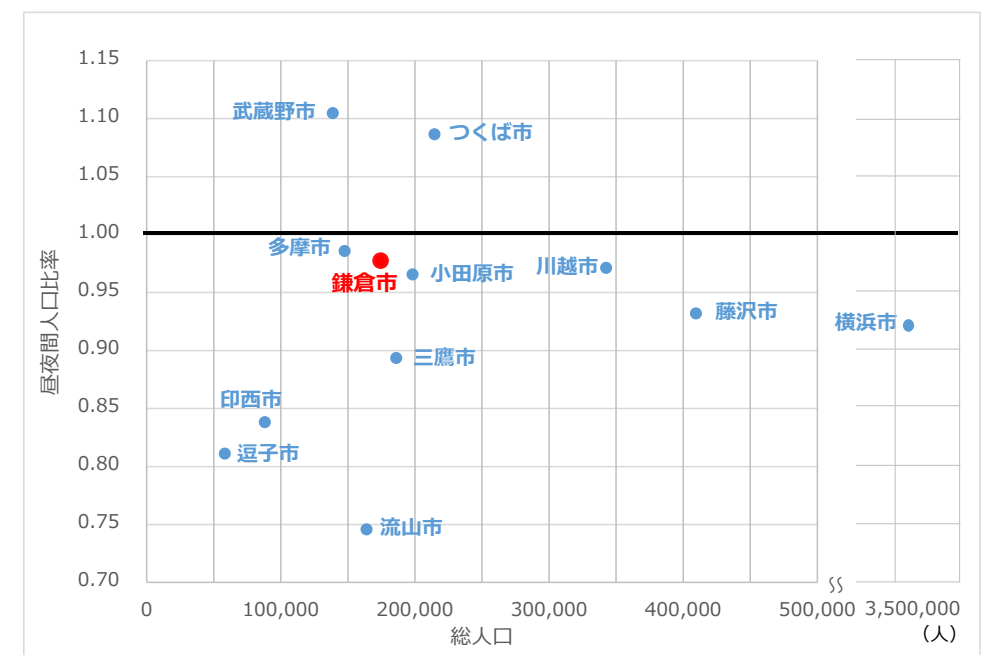
- 神奈川県内の都市と各種指標について、相互比較し、本市の特徴について把握。
- 県内での位置づけに加え、首都圏内での立ち位置を把握する必要があるため、以降の調査を実施。
- 本市の特徴を把握するために、都市ランキング上位都市等について人口や産業、結婚、土地、住宅に関わる各種指標を収集し、相互比較することにより、鎌倉市の特徴を把握。
- 鎌倉市の特徴に着目し、同様の特徴を有する都市との比較により、出生率や社会移動の要因を把握する。具体的には、高い大学等進学率、東京からの社会移動、産業面での吸引力に着目して分析を実施。
- 優れた特徴が統計上にも反映されている都市については、特筆すべき施策等がないか調査し、先行事例として把握。

2. 鎌倉市の特徴の把握に向けて

- ▶ 鎌倉市の特徴を把握するため、首都圏における立地を考慮しつつ、都市間競争の視点から①都市ランキング（東洋経済新報社「住みよさランキング」）上位都市、②近隣都市、③産業面での共通性のある都市を抽出し、各種指標の比較を行い、鎌倉市の立ち位置を明確化する。

	鎌倉市	横浜市	藤沢市	小田原市	逗子市	武蔵野市	三鷹市	多摩市	川崎市	流山市	印西市	つくば市
住みよさランキング 上位30位（関東）	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●
近隣都市		●	●		●							
産業面での共通性 （観光）				●					●			

- ▶ 比較を行う12都市の基本属性をみると、鎌倉市は総人口では中位に属する（2010年国勢調査で12都市中7位）。
- ▶ また昼夜間人口比率では上位に位置するものの、人口増加率や合計特殊出生率は相対的に低い状況である。



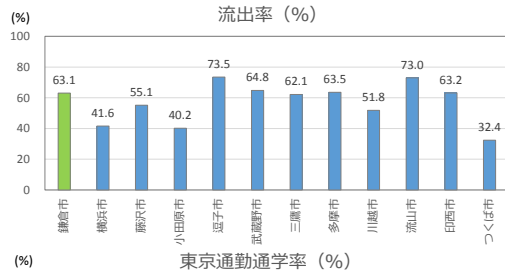
2. 都市間比較による鎌倉市の特徴

① 就業、産業構造の状況に関する特徴

1. 鎌倉市における通勤・通学の状況

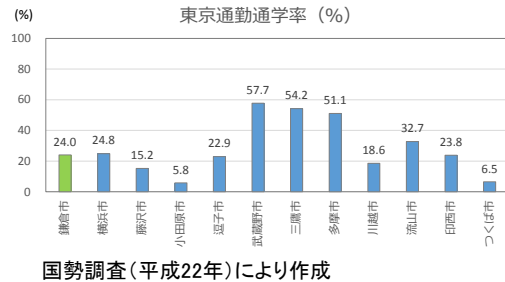
市外に通勤・通学する人

流出率（「当地に常住する就業者・通学者」のうち、「他市区町村で就業・通学する者」の割合）を見ると、鎌倉市では**就業者・通学者の63.1%が市外に流出**しており、ベッドタウンとしての特徴がみられる。



東京に通勤・通学する人

鎌倉市の**「東京への通勤・通学率」は24.0%**となっており、東京のベッドタウンとなっている横浜市や流山市、印西市と近い割合となっている。



国勢調査(平成22年)により作成

→ 鎌倉市は、首都圏のベッドタウンである。

2. 鎌倉市の昼間人口

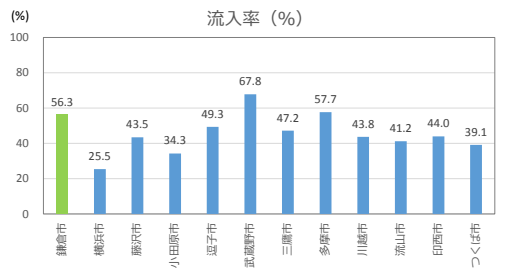
昼間人口

鎌倉市の**昼夜間人口比率は0.98と比較都市のなかでも高く**、典型的なベッドタウンである流山市と比較すると、大きく上回っていることがわかる。同程度の都市としては、小田原市、多摩市、川越市があげられる。



鎌倉市への通勤・通学（他市町村常住者）

鎌倉市の流入率（「当地に就業・就学する者」のうち、「他市区町村に常住する者」の割合）は相対的に高くなっている。**昼夜間人口が高い要因として、流出率も高い代わりに流入率も一定程度あり、通勤・通学の場が一定程度存在していること**が挙げられる。



国勢調査(平成22年)により作成

→ 鎌倉市は、「仕事や教育の場のあるまち」でもある。

3. 鎌倉市における就業・産業構造

※典型的なベッドタウンである流山市と、観光都市としての共通項のある川越市を代表として抽出して比較

就業者数（従業地による）

- 鎌倉市での産業ごとの就業者数をみると、**男性で「E 製造業」、女性で「I 卸売業、小売業」**が最も多くなっている。
- 男性の就業者数を流山市、川越市と比較すると、共通で「E 製造業」と「卸売業、小売業」の就業者が多くなっている。流山市、川越市では「D 建設業」が多い一方で、鎌倉市では「L 学術研究～」の男性就業者数が多くなっている。
- 女性の就業者数では、「M 宿泊業、飲食サービス業」、「P 医療、福祉」が多く、川越市では「E 製造業」が多いのに対し、鎌倉市は流山市と共通して「卸売業、小売業」の女性就業者数が多くなっている。

	鎌倉市		流山市		川越市	
	男	女	男	女	男	女
総数(職業大分類)	34,278	30,769	19,771	19,860	82,339	63,088
A 農業、林業	311	129	352	319	1,528	1,141
B 漁業	51	21	0	0	1	1
C 鉱業、採石業、砂利採取業	0	0	3	0	5	1
D 建設業	2,582	511	2,723	564	8,550	1,550
E 製造業	6,456	2,254	2,024	1,407	17,469	7,636
F 電気・ガス・熱供給・水道業	228	25	255	43	637	114
G 情報通信業	2,604	685	334	146	1,102	445
H 運輸業、郵便業	2,272	374	1,236	530	6,231	1,634
I 卸売業、小売業	4,015	6,396	3,179	4,190	11,629	12,597
J 金融業、保険業	438	814	218	401	1,250	1,900
K 不動産業、物品賃貸業	1,008	794	563	433	1,564	947
L 学術研究、専門・技術サービス業	2,719	1,180	764	416	2,682	1,437
M 宿泊業、飲食サービス業	2,118	3,690	887	1,669	3,127	4,982
N 生活関連サービス業、娯楽業	1,001	1,404	779	1,154	2,240	3,104
O 教育、学習支援業	1,502	2,519	979	1,528	3,305	3,710
P 医療、福祉	2,021	6,248	1,168	4,154	4,150	11,003
Q 複合サービス事業	132	139	110	106	317	257
R サービス業(他に分類されないもの)	2,041	1,246	1,274	818	4,939	2,831
S 公務(他に分類されるものを除く)	1,344	897	857	425	2,593	983
T 分類不能の産業	1,435	1,443	2,066	1,557	9,020	6,815

産業特化係数

- 産業構造の特徴を把握するため、産業特化係数をみると、全国と比較して、男女ともに、「L 学術研究～」 「M 宿泊業、飲食サービス業」の割合が高く、**文化都市、観光都市**としての色合いとともに、「G 情報通信業」が際立って高い産業構造であるといえる。
- ベッドタウンである流山市において特化係数が高い産業のうち、「K 不動産業、物品賃貸業」、「N 生活関連サービス業、娯楽業」、「O 教育、学習支援業」は鎌倉市でも高い水準にあるが、「F 電気～」は低い水準にある。
- 観光都市である川越市とは、「P 医療、福祉」ではともに高い傾向で共通しているが、共通する傾向は多くない。

	鎌倉市		流山市		川越市	
	男	女	男	女	男	女
A 農業、林業	0.24	0.12	0.46	0.46	0.48	0.52
B 漁業	0.38	0.41	0.00	0.00	0.00	0.01
C 鉱業、採石業、砂利採取業	0.00	0.00	0.28	0.00	0.11	0.12
D 建設業	0.68	0.63	1.24	1.07	0.93	0.93
E 製造業	0.97	0.63	0.53	0.61	1.09	1.04
F 電気・ガス・熱供給・水道業	0.93	0.52	1.80	1.39	1.08	1.16
G 情報通信業	2.20	1.27	0.49	0.42	0.39	0.40
H 運輸業、郵便業	0.86	0.52	0.81	1.13	0.99	1.10
I 卸売業、小売業	0.82	1.07	1.13	1.09	0.99	1.03
J 金融業、保険業	0.63	0.82	0.55	0.62	0.75	0.93
K 不動産業、物品賃貸業	1.47	1.53	1.42	1.29	0.95	0.89
L 学術研究、専門・技術サービス業	2.11	1.58	1.03	0.86	0.87	0.94
M 宿泊業、飲食サービス業	1.60	1.45	1.16	1.02	0.98	0.96
N 生活関連サービス業、娯楽業	1.12	0.89	1.51	1.13	1.04	0.96
O 教育、学習支援業	1.29	1.42	1.45	1.33	1.18	1.02
P 医療、福祉	1.40	1.10	1.40	1.14	1.20	0.95
Q 複合サービス事業	0.61	0.72	0.88	0.84	0.61	0.64
R サービス業(他に分類されないもの)	0.95	0.81	1.03	0.83	0.96	0.90
S 公務(他に分類されるものを除く)	0.89	1.43	0.99	1.05	0.72	0.76
T 分類不能の産業	0.72	0.81	1.79	1.36	1.88	1.87

特化係数：構成比を特定の集団（全国値）の構成比で割った係数のことで、この係数が1から離れるほど、当該項目の構成比が特定の集団の構成比に比べて大きな違い（特徴）があることを意味する。

→ 典型的なベッドタウンに比べ、製造業、物販、文化、観光の仕事が多い。

2. 都市間比較による鎌倉市の特徴

② 出生力に関する特徴

1. 鎌倉市民の年齢構成

人口構成割合
 ▶ 人口構成割合を見ると、横浜市、藤沢市、三鷹市が「30歳代」「40歳代」の順で、武蔵野市、つくば市が「30歳代」「20歳代」の順に高くなっているに対して、鎌倉市は「70歳代以上」「60歳代」の順で高く、**人口構成で高齢化が顕著**になっている。

	0歳代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
鎌倉市	7.9%	8.0%	8.5%	13.7%	14.8%	11.6%	15.5%	20.2%
横浜市	8.7%	9.2%	11.5%	15.9%	15.4%	11.9%	13.4%	13.9%
藤沢市	9.1%	9.5%	11.5%	16.0%	15.2%	11.5%	13.5%	13.6%
小田原市	8.2%	9.5%	10.3%	13.7%	13.8%	12.8%	15.0%	16.6%
逗子市	7.7%	8.6%	7.5%	13.2%	15.1%	11.7%	15.9%	20.1%
武蔵野市	7.0%	7.7%	15.1%	17.6%	15.0%	11.4%	11.6%	14.5%
三鷹市	7.6%	8.4%	14.3%	18.2%	15.5%	11.0%	11.4%	13.5%
多摩市	8.0%	8.8%	12.6%	15.3%	13.7%	12.1%	15.8%	13.7%
川越市	8.5%	9.7%	11.8%	15.2%	13.5%	12.0%	15.6%	13.7%
印西市	9.5%	11.5%	12.2%	13.2%	13.9%	15.9%	12.7%	11.1%
流山市	9.2%	8.7%	11.8%	16.6%	13.1%	11.7%	15.3%	13.5%
つくば市	10.3%	10.5%	14.7%	16.7%	13.6%	11.7%	11.2%	11.3%

国勢調査(平成22年)により作成

2. 人口の再生産力

- ▶ 社会保障・人口問題研究所の推計手法に準拠しながら、**社会移動がゼロ**となる仮定での推計を実施した。転入・転出を考慮しないことから、**出生率及び人口構造から自然増減に係る要素のみが反映**される。
- ▶ 総人口の2010年から2040年までの各都市の減少率を見ると、横浜市が87%、藤沢市が88%、武蔵野市が84%、流山市が86%まで減少すると推計される一方で、鎌倉市は77%まで減少すると推計される。
- ▶ 2060年までの各都市の減少率を見ると、横浜市が68%、藤沢市が70%、武蔵野市が62%、流山市が73%まで減少すると推計される一方で、鎌倉市は58%まで減少すると推計され、**人口の再生産力が低い**ことがわかる。

	推計			指数		
	2010年	2040年	2060年	2010年	2040年	2060年
鎌倉市	174,312	134,438	100,724	1.00	0.77	0.58
横浜市	3,688,774	3,193,771	2,495,775	1.00	0.87	0.68
藤沢市	409,653	360,187	285,535	1.00	0.88	0.70
小田原市	198,333	159,239	121,729	1.00	0.80	0.61
逗子市	58,299	44,075	32,526	1.00	0.76	0.56
武蔵野市	138,730	116,079	85,453	1.00	0.84	0.62
三鷹市	186,084	162,499	124,045	1.00	0.87	0.67
多摩市	147,644	124,419	95,638	1.00	0.84	0.65
川越市	342,670	291,023	229,005	1.00	0.85	0.67
流山市	163,982	146,136	120,297	1.00	0.89	0.73
印西市	88,173	79,660	63,777	1.00	0.90	0.72
つくば市	214,593	206,631	176,076	1.00	0.96	0.82

推計ワークシートよりパターン1をベースとして、社会移動をゼロとして推計

→住民の年齢構成をみると、鎌倉市は相対的に高齢化が進んでおり、人口の再生産力が低い。

3. 鎌倉市民の晩婚化、非婚化、晩産化

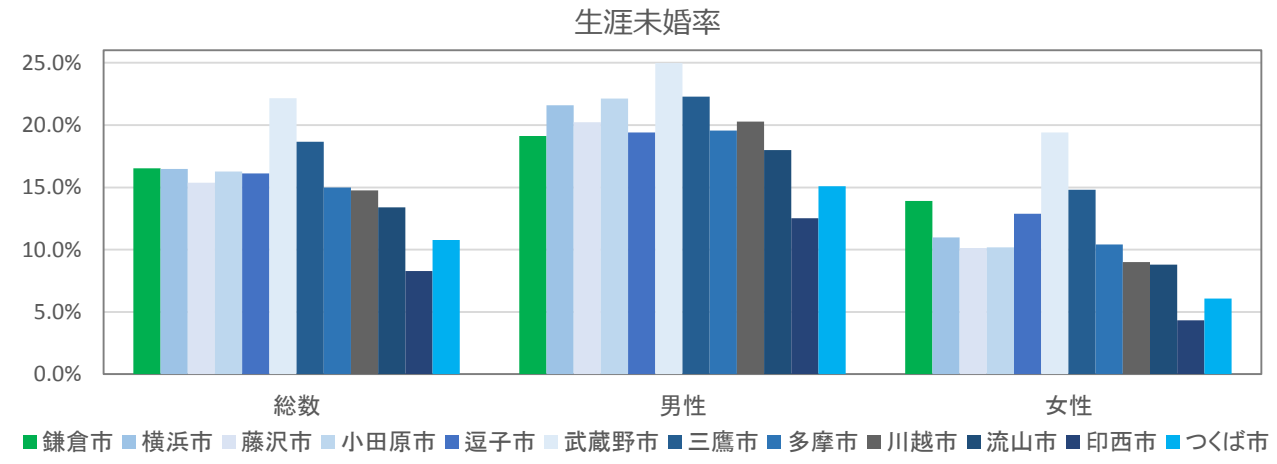
生涯未婚率
 ▶ 鎌倉市の生涯未婚率は、男性で19.1%、女性で13.9%となっており、比較都市の中でも武蔵野市、三鷹市に次いで、**女性の未婚率が高くなっている**状況である。

平均初婚年齢
 ▶ 鎌倉市の平均初婚年齢は、男性で32.7歳、女性で30.9歳となっており、武蔵野市、三鷹市、多摩市、逗子市とともに**首都圏でも高い水準**となっている。

合計特殊出生率
 ▶ 鎌倉市の合計特殊出生率は、武蔵野市1.14、三鷹市1.15、多摩市1.13と同水準の1.19となっているが、横浜市1.27、藤沢市1.37に対しては下回っている。

	生涯未婚率			平均初婚年齢		合計特殊出生率
	総数	男性	女性	男性	女性	
鎌倉市	16.5%	19.1%	13.9%	32.7	30.9	1.19
横浜市	16.5%	21.6%	11.0%	31.4	29.6	1.27
藤沢市	15.4%	20.2%	10.1%	31.2	29.6	1.37
小田原市	16.3%	22.1%	10.2%	31.0	29.2	1.24
逗子市	16.1%	19.4%	12.9%	33.3	31.0	1.34
武蔵野市	22.2%	25.0%	19.4%	32.0	30.2	1.14
三鷹市	18.7%	22.3%	14.8%	32.3	30.7	1.15
多摩市	15.0%	19.6%	10.4%	32.5	30.2	1.13
川越市	14.8%	20.3%	9.0%	-	-	1.39
流山市	13.4%	18.0%	8.8%	-	-	1.5
印西市	8.3%	12.5%	4.3%	-	-	1.29
つくば市	10.8%	15.1%	6.1%	30.8	29.4	1.37

生涯未婚率: 国勢調査より45~49歳、50~54歳の未婚率平均により算出
 平均初婚年齢および合計特殊出生率: 各都道府県公表している人口動態統計(平成25年)より作成



→出生率低下の原因となる晩婚化、非婚化、晩産化が進んでいる。

2. 都市間比較による鎌倉市の特徴

③ 生活基盤に関する特徴

1. 鎌倉市の地価

地価調査

国土利用計画法施行令第9条の規定に基づく地価調査によれば、**鎌倉市の地価は相対的に高い水準で推移**している。住宅地では横浜市を下回るものの、商業地では横浜市よりもおよそ10万円/m高くなっている。

公示地価

地価公示法に基づく公示地価では、住宅地は地価調査と同様の傾向を示している。また、住宅地及び商業地では横浜市よりも鎌倉市の地価は下回る価格となっているものの、**流山市等の他県の郊外部に比べると高い水準**となっている。

	地価調査		地価公示価格	
	住宅地 (円/m ²)	商業地 (円/m ²)	住宅地 (円/m ²)	商業地 (円/m ²)
鎌倉市	192,600	652,500	199,500	419,000
横浜市	214,000	546,500	214,100	518,000
藤沢市	202,500	426,700	186,000	377,200
小田原市	110,600	196,900	114,000	228,300
逗子市	172,900	317,000	187,200	339,000
武蔵野市	420,900	4,400,000	476,900	1,323,500
三鷹市	343,200	1,930,000	357,200	698,800
多摩市	176,400	362,500	185,600	389,600
川越市	126,600	312,300	130,700	308,100
流山市	119,100	293,000	121,600	145,800
印西市	36,100	120,000	40,200	102,500
つくば市	51,700	124,500	64,800	142,500

各自治体の公表する平成26年地価公示、地価調査により作成

→ 鎌倉市は、比較都市に比べ、地価が高い。

2. 鎌倉市への居住意向

居住意向

鎌倉市が実施した市民意識調査によれば、平成23年から平成25年まで、**継続して85%以上の市民が「市内に住み続けたい」と回答**しており、極めて高い水準となっている。

鎌倉市	平成23年	平成24年	平成25年
総数(件)	1016	964	879
住み続けたいと思う(%)	86.4	86.9	86.8
住み続けたいと思わない(%)	9.9	7.4	8.2
無回答(%)	3.6	5.7	5

平成25年度 第3次鎌倉市総合計画第2期基本計画に関する市民意識調査報告書(平成26年4月)

→ 既に居住している市民からの居住継続意向が高い。

3. 鎌倉市の住宅供給

着工新設住宅戸数

着工新設住宅戸数をみると、鎌倉市が1,405件に対し、横浜市は27,548件、藤沢市は3,642件、川越市は3,168件となっており、鎌倉市は**住宅供給の絶対数が少ない**状況にある。
人口千人あたりの着工新設住宅戸数をみると、鎌倉市は8.1と横浜市や逗子市などよりは高い水準にあるものの、つくば市や流山市などの郊外型都市に比べ、低い戸数にとどまっている

	総人口	着工新設住宅戸数(戸)		人口千人当り 着工新設住宅戸数
		戸数	床面積の合計 (m ²)	
鎌倉市	174,314	1,405	125,569	8.1
横浜市	3,688,773	27,548	2,201,859	7.5
藤沢市	409,657	3,642	292,262	8.9
小田原市	198,327	1,376	127,512	6.9
逗子市	58,302	400	37,650	6.9
武蔵野市	138,734	1,412	115,042	10.2
三鷹市	186,083	1,702	131,489	9.1
多摩市	147,648	716	59,322	4.8
川越市	342,670	3,168	292,659	9.2
流山市	163,984	1,910	162,560	11.6
印西市	88,176	499	55,108	5.7
つくば市	214,590	2,712	239,908	12.6

着工住宅戸数は建築着工統計調査(平成24年)、総人口は国勢調査(平成22年)により作成

→ 鎌倉市は、比較都市に比べ、新たな住宅供給の絶対量が少ない。

4. 鎌倉市の富裕度

一人当たりの課税対象所得

一人当たり課税対象所得(市町村民税)を見ると、鎌倉市は4,676,000円/人となっており、武蔵野市の5,031,000円に次いで高くなっている。また、鎌倉市に続く逗子市、三鷹市、横浜市と比べ、300,000円以上高くなっている。

	所得割の納税義務者数		総所得金額等		課税対象所得		一人当たり課税対象所得	
	市町村民税 (人)	道府県民税 (人)	市町村民税 (円)	道府県民税 (円)	市町村民税 (円)	道府県民税 (円)	市町村民税 (千円)	道府県民税 (千円)
鎌倉市	82,927	82,901	¥348,403,259	¥348,382,180	¥387,806,689	¥387,776,235	¥4,676	¥4,678
横浜市	1,763,867	1,763,377	¥6,707,636,028	¥6,707,260,969	¥6,999,650,450	¥6,999,263,824	¥3,968	¥3,969
藤沢市	196,594	196,543	¥723,441,061	¥723,403,814	¥758,191,011	¥758,171,051	¥3,857	¥3,858
小田原市	89,495	89,467	¥283,919,603	¥283,903,247	¥292,397,358	¥292,381,002	¥3,267	¥3,268
逗子市	27,568	27,559	¥109,195,303	¥109,189,542	¥120,436,788	¥120,431,028	¥4,369	¥4,370
武蔵野市	73,347	73,334	¥340,239,279	¥340,230,204	¥369,038,215	¥369,029,141	¥5,031	¥5,032
三鷹市	90,144	90,109	¥360,400,877	¥360,379,775	¥392,963,145	¥392,941,339	¥4,359	¥4,361
多摩市	69,553	69,519	¥243,695,400	¥243,671,873	¥256,179,138	¥256,148,028	¥3,683	¥3,685
川越市	158,237	158,181	¥498,607,598	¥498,572,092	¥518,782,342	¥518,746,651	¥3,279	¥3,279
流山市	79,227	79,202	¥277,515,247	¥277,495,614	¥288,544,314	¥288,524,681	¥3,642	¥3,643
印西市	40,663	40,646	¥145,652,332	¥145,641,984	¥148,774,695	¥148,764,347	¥3,659	¥3,660
つくば市	96,117	96,086	¥356,842,164	¥356,819,973	¥369,446,750	¥369,424,559	¥3,844	¥3,845

総務省『市町村税課税状況等の調(平成26年度)』により作成 総人口は国勢調査(平成22年)

→ 鎌倉市は、相対的に市民の富裕度(平均納税額)が高い。

3. 論点別の課題の整理 (1 / 4)

	①出生率の視点からみた 問題点・課題	②人口の転入・転出の視点からみた 問題点・課題	③仕事と賑わいの視点からみた 問題点・課題
【論点①】 鎌倉市は首都圏のベッドタウンである。	【問題点・懸念事項】 ・東京への通勤時間が1時間程度かかるため、早朝や夜間などの時間帯において、託児・保育等をせざるを得ないケースなどが考えられる。 ↓ 【鎌倉市の課題】 ・駅周辺での早朝保育や延長保育など、通勤者のニーズに合った支援施策の充実などの施策が考えられる。	【問題点・懸念事項】 ・首都圏のベッドタウンとして都市間競争が激化するなかでの、鎌倉市の魅力はどこにあり、訴求ができているか。 ↓ 【鎌倉市の課題】 ・東京への通勤・通学率は高く、東京のベッドタウンとしての価値を高め、市場優位性を確保して、継続的な市の発展を可能にする状況を創出する必要がある。	【問題点・懸念事項】 ・首都圏から夫婦で転入があった場合に、主に子どもをみる配偶者の職場について、ニーズにあった場の確保ができているか。 ↓ 【鎌倉市の課題】 ・市内における多様な職場の確保が必要である。
【論点②】 鎌倉市は「仕事や教育の場のあるまち」でもある。	【問題点・懸念事項】 ・職住近接に必要となる「働く場」はあるが、実態として子育てをしながらの働く場としてのマッチングはできているのか。 ↓ 【鎌倉市の課題】 ・市内企業における多様なニーズに応じた働き方等の確保がされるとよい。	【問題点・懸念事項】 ・仕事・教育による昼間の流入は、転入に結びついているか。 ↓ 【鎌倉市の課題】 ・仕事や就学は、鎌倉市と触れ合ってもらった大きなきっかけでもあり、転入／転出抑制につなげたい。	【問題点・懸念事項】 ・市内に通勤・通学する人は、市外からの方が多く、住まいの場としては選ばれていない。 ↓ 【鎌倉市の課題】 ・職住近接性を高めるため、生活の場として魅力を高めることが必要である。
【論点③】 典型的なベッドタウンに比べ、製造業、物販、文化、観光の仕事が多い。	-	-	【問題点・懸念事項】 ・鎌倉市には地域の強みを活かした産業があるが、その特性が十分に活かされているのか。 ↓ 【鎌倉市の課題】 ・特定の産業の集積を図るため、企業誘致策を行うなどの施策が必要か。

3. 論点別の課題の整理 (2/4)

	①出生率の視点からみた 問題点・課題	②人口の転入・転出の視点からみた 問題点・課題	③仕事と賑わいの視点からみた 問題点・課題
【論点④】 住民の年齢構成をみると、鎌倉市は相対的に高齢化が進んでおり、人口の再生産力が低い。	【問題点・懸念事項】 ・高齢化により、再生産力のより一層の低下が懸念される。 ↓ 【鎌倉市の課題】 ・若者層の転入と定着（転出抑制）を促進し、人口構造の若返り化を進める必要がある。	-	【問題点・懸念事項】 ・仕事や地域コミュニティの担い手不足や高齢化が懸念される。 ↓ 【鎌倉市の課題】 ・若者層の転入と定着（転出抑制）を促進し、人口構造の若返り化を進める必要がある。
【論点⑤】 出生率低下の原因とされる晩婚化、非婚化、晩産化が鎌倉市では進んでいる。	【問題点・懸念事項】 ・鎌倉市では女性の未婚率が他市を上回っている。また、平均初婚年齢も、高い水準となっている。これらの結果、鎌倉市の合計特殊出生率は、1.19と国や県平均を下回っている。 ↓ 【鎌倉市の課題】 ・結婚や出産後も暮らし続けやすい環境をつくり、若年層から家族世帯の割合を高める必要がある。	【問題点・懸念事項】 ・高い未婚率や平均初婚年齢の背景には、結婚を機に転出する男女が多いことが想定される。 ↓ 【鎌倉市の課題】 ・結婚や出産後も暮らし続けやすい環境をつくり、若年層から家族世帯の割合を高める必要がある。	-
【論点⑥】 鎌倉市およびその周辺都市は、首都圏の他の郊外部に比べ地価が相対的に高い。	-	【問題点・懸念事項】 ・通勤距離や通勤時間が同程度の他都市に対して、競争力が低くなることが懸念される。 ↓ 【鎌倉市の課題】 ・地価等に見合った、鎌倉市の個性を活かした生活環境を磨くことで競争力を維持する。	-

3. 論点別の課題の整理 (3 / 4)

	①出生率の視点からみた 問題点・課題	②人口の転入・転出の視点からみた 問題点・課題	③仕事と賑わいの視点からみた 問題点・課題
【論点⑦】 既に居住している市民 からの居住継続意向は 高い。	-	【問題点・懸念事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 住み続けたいにも係らず、地価や住宅価格、生活コスト、通勤・通学環境等により、転出せざるを得ない人がいることが懸念される。 ↓ 【鎌倉市の課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート等により市民の意向を把握し、居住継続の障壁となっている要素を取り除く必要がある。 	-
【論点⑧】 周辺都市に比べ鎌倉市 は、新たな住宅供給の 絶対量が少ない。	-	【問題点・懸念事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 低価格の住宅が、周辺都市や首都圏内で相対的に多く供給されることにより、転出の圧力がかかることが想定される。 ↓ 【鎌倉市の課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな住宅の供給のみでなく、建替えやリフォーム等による住み替えも含めた、総合的な検討が必要。 	-
【論点⑨】 相対的に市民の富裕度 は高い（平均納税額）。	-	【問題点・懸念事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 富裕度の高い住民構成は、自治体経営上は利点である。 ↓ 【鎌倉市の課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 選ばれる自治体として、都市ブランドや魅力を維持していくことが必要である。 	-

4. 特徴が類似した都市との比較

① 女性の高学歴化が進んでいる都市との比較 (1/5)

1. 大卒等率の高い鎌倉市

- ▶ 大学等の高等教育課程の卒業者が多いことは鎌倉市の特徴の一つとなっており、前述の12都市との比較においても、武蔵野市に次いで2位となっている。
- ▶ 一方、卒業した教育課程は、就職形態や業種選択、個人の収入等の変化要因となっており、これらは出生率の変化に対しても影響を与えるものと想定されることから、首都圏（一都三県）市区町村について、大卒等率を調査した。
- ▶ なお、大卒等率については、平成22（2010）年国勢調査を元データとし、各市町村の「学校の卒業生」のうち、「短大・高専」および「大学・大学院」の合計が占める割合を求めることにより算出している。

【一都三県における男女別大卒等率の順位】

合計		卒業生 (人)	大学等 卒業生数 (人)	大卒等率 (%)	男			女			合計特殊 出生率 (H25 国1.43)				
1	横浜市 青葉区	230,707	134,772	58.42%	1	横浜市 青葉区	111,878	69,283	61.93%	1	横浜市 青葉区	118,829	65,489	55.11%	1.33
2	さいたま市 浦和区	113,712	61,861	54.40%	2	さいたま市 浦和区	55,073	32,604	59.20%	2	武蔵野市	59,328	29,909	50.41%	1.14
3	武蔵野市	112,383	59,221	52.70%	3	葉山町	12,184	7,124	58.47%	3	さいたま市 浦和区	58,639	29,257	49.89%	1.30
4	葉山町	26,471	13,914	52.56%	4	鎌倉市	66,534	37,723	56.70%	4	杉並区	210,734	104,248	49.47%	0.95
5	杉並区	396,403	204,594	51.61%	5	逗子市	22,126	12,431	56.18%	5	横浜市 都筑区	73,967	35,935	48.58%	1.50
6	川崎市 麻生区	131,951	67,952	51.50%	6	武蔵野市	53,055	29,312	55.25%	6	浦安市	63,656	30,923	48.58%	1.11
7	小金井市	92,461	47,450	51.32%	7	川崎市 麻生区	63,603	35,009	55.04%	7	川崎市 麻生区	68,348	32,943	48.20%	1.30
8	横浜市 都筑区	145,721	74,755	51.30%	8	小金井市	45,164	24,725	54.74%	8	横浜市 港北区	130,630	62,787	48.06%	1.35
9	鎌倉市	143,350	73,414	51.21%	9	横浜市 都筑区	71,754	38,820	54.10%	9	小金井市	47,297	22,725	48.05%	1.29
10	浦安市	126,415	63,979	50.61%	10	杉並区	185,669	100,346	54.05%	10	葉山町	14,287	6,790	47.53%	1.24
11	横浜市 港北区	262,308	132,031	50.33%	11	千葉市 美浜区	54,482	29,425	54.01%	11	青ヶ島村	57	27	47.37%	0.00
12	国分寺市	94,753	47,570	50.20%	12	国分寺市	46,519	24,819	53.35%	12	中央区	54,887	25,937	47.26%	1.29
13	逗子市	47,812	23,995	50.19%	13	浦安市	62,759	33,056	52.67%	13	国分寺市	48,234	22,751	47.17%	1.21
14	中央区	104,866	51,242	48.86%	14	横浜市 港北区	131,678	69,244	52.59%	14	鎌倉市	76,816	35,691	46.46%	1.19
15	千葉市 美浜区	113,391	55,242	48.72%	15	習志野市	63,601	33,179	52.17%	15	千代田区	19,552	9,051	46.29%	1.09
16	千代田区	38,922	18,700	48.04%	16	我孫子市	50,577	26,124	51.65%	16	小笠原村	805	366	45.47%	1.36
17	習志野市	128,713	60,949	47.35%	17	さいたま市 中央区	37,818	19,228	50.84%	17	文京区	87,240	39,496	45.27%	1.09
18	文京区	163,476	77,187	47.22%	18	さいたま市 大宮区	41,669	21,142	50.74%	18	逗子市	25,686	11,564	45.02%	1.34
19	さいたま市 中央区	76,268	35,879	47.04%	19	中央区	49,979	25,305	50.63%	19	和光市	30,514	13,457	44.10%	1.40
20	さいたま市 南区	136,952	64,239	46.91%	20	さいたま市 南区	69,095	34,814	50.39%	20	千葉市 美浜区	58,909	25,817	43.83%	1.23

合計特殊出生率は各都県が発表したH25年の数値。ただし、千葉市美浜区については、厚生労働省「平成20年～平成24年 人口動態保健所・市区町村別統計」による。

2. 高学歴化が進むと、総じて低くなる出生率

- ▶ 一都三県の中でも、鎌倉市は大卒等率が高い都市のひとつであり、全体で9位（男4位、女14位）となっている。男女合計の上位20位までをみると、神奈川県と東京都がそれぞれ7団体、埼玉県と千葉県がともに3団体となっている。
- ▶ 加えて下表では、女性の大卒等率上位20位までについて、合計特殊出生率を併記している。これによると、高学歴化が進んだ都市は総じて出生率が低く、東京特別区の団体をはじめとして、**全国平均を大きく下回る傾向**がある。一方、神奈川県、埼玉県の団体においては、**相対的に出生率が高い団体**も見られ、**横浜市の都筑区では1.50と全国平均を上回る結果**となっている。
- ▶ ここでは、都筑区に着目し、鎌倉市との違いについて検討し、出生率上昇に向けた糸口を探る。

4. 特徴が類似した都市との比較

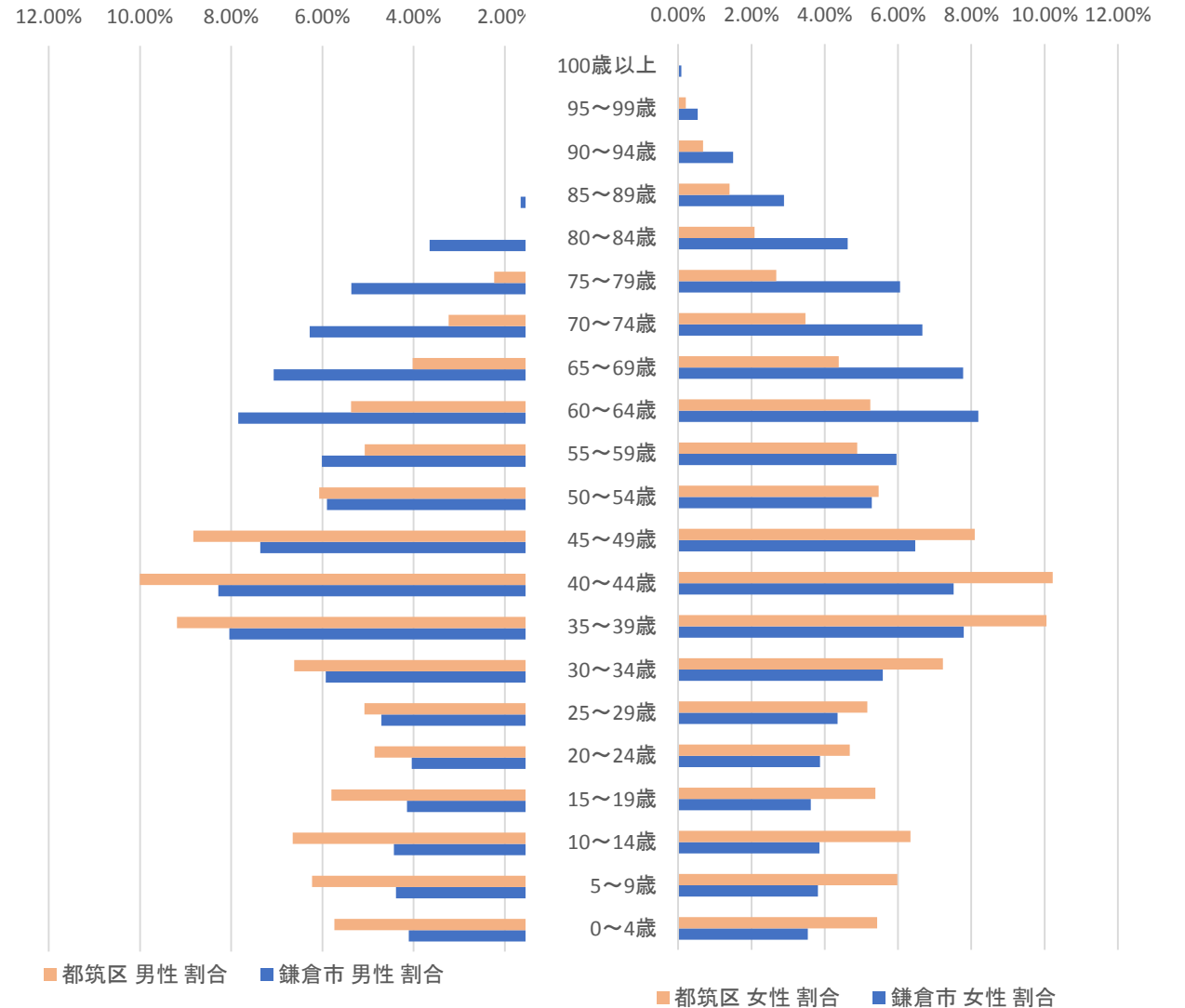
① 女性の高学歴化が進んでいる都市との比較 (2/5)

3. 鎌倉市と都筑区の人口構造の違い

- ▶ 鎌倉市と横浜市都筑区とを比べてみると、高齢化が進展している鎌倉市に比べ、都筑区では人口構造自体が若々しい状況にあることがわかる。鎌倉市では、いわゆる「団塊の世代」「団塊ジュニア世代」が人口のボリュームゾーンとなっており、60歳以上人口の占める割合が高くなっている。
- ▶ 一方、都筑区のボリュームゾーンは「団塊ジュニア世代」と「若年層」となっている。また、「団塊世代」以上が占める割合は少なく、鎌倉市に比べ実数でも下回っている状況である。
- ▶ なお、平成22年において、鎌倉市の平均年齢は47.56歳であるのに対し、都筑区は38.96歳となっている。

【鎌倉市と都筑区の人口構造 表と人口ピラミッド (割合) (平成22年国勢調査から)】

平成22年 国勢調査	鎌倉市					都筑区				
	男性		女性		合計 人口	男性		女性		合計 人口
	人口	割合	人口	割合		人口	割合	人口	割合	
総数 (年齢)	82,235	100.00%	92,079	100.00%	174,314	101,537	100.00%	99,734	100.00%	201,271
0~4歳	3,377	4.11%	3,256	3.54%	6,633	5,826	5.74%	5,419	5.43%	11,245
5~9歳	3,606	4.38%	3,514	3.82%	7,120	6,320	6.22%	5,966	5.98%	12,286
10~14歳	3,644	4.43%	3,547	3.85%	7,191	6,749	6.65%	6,322	6.34%	13,071
15~19歳	3,409	4.15%	3,335	3.62%	6,744	5,893	5.80%	5,365	5.38%	11,258
20~24歳	3,323	4.04%	3,562	3.87%	6,885	4,927	4.85%	4,667	4.68%	9,594
25~29歳	3,867	4.70%	4,007	4.35%	7,874	5,153	5.07%	5,145	5.16%	10,298
30~34歳	4,871	5.92%	5,140	5.58%	10,011	6,716	6.61%	7,203	7.22%	13,919
35~39歳	6,614	8.04%	7,177	7.79%	13,791	9,329	9.19%	10,026	10.05%	19,355
40~44歳	6,811	8.28%	6,923	7.52%	13,734	10,161	10.01%	10,191	10.22%	20,352
45~49歳	6,055	7.36%	5,954	6.47%	12,009	8,968	8.83%	8,070	8.09%	17,038
50~54歳	4,851	5.90%	4,863	5.28%	9,714	6,162	6.07%	5,455	5.47%	11,617
55~59歳	4,943	6.01%	5,483	5.95%	10,426	5,149	5.07%	4,870	4.88%	10,019
60~64歳	6,452	7.85%	7,544	8.19%	13,996	5,452	5.37%	5,226	5.24%	10,678
65~69歳	5,810	7.07%	7,158	7.77%	12,968	4,085	4.02%	4,375	4.39%	8,460
70~74歳	5,162	6.28%	6,139	6.67%	11,301	3,279	3.23%	3,463	3.47%	6,742
75~79歳	4,409	5.36%	5,577	6.06%	9,986	2,265	2.23%	2,673	2.68%	4,938
80~84歳	3,001	3.65%	4,260	4.63%	7,261	1,336	1.32%	2,081	2.09%	3,417
85~89歳	1,356	1.65%	2,660	2.89%	4,016	608	0.60%	1,401	1.40%	2,009
90~94歳	494	0.60%	1,378	1.50%	1,872	225	0.22%	675	0.68%	900
95~99歳	124	0.15%	492	0.53%	616	76	0.07%	204	0.20%	280
100歳以上	11	0.01%	77	0.08%	88	12	0.01%	24	0.02%	36
不詳	45	0.05%	33	0.04%	78	2,846	2.80%	913	0.92%	3,759



4. 特徴が類似した都市との比較

① 女性の高学歴化が進んでいる都市との比較 (3/5)

4. 子どもがいる世帯が少ない鎌倉市

- 鎌倉市と都筑区の人口構造の違いは、世帯構成からも読み取ることが出来る。
- 6歳未満の子どもがいる世帯は、鎌倉市では全世帯8.72%だが、都筑区では14.35%となっている。また18歳未満の子どもがいる世帯は鎌倉市で21.26%、都筑区で35.50%と、**子どものいる世帯の割合は大幅に都筑区が高くなっている**。
- なお、3世帯同居率は、都筑区よりも鎌倉市が高くなっている。**首都圏では3世帯同居が出生率の動向と直結しない**可能性もある。

【子どものいる世帯数と比率の比較 (平成17年、22年国勢調査から)】

平成17 (2005) 年国勢調査		一般世帯数		6歳未満のいる世帯数		18歳未満のいる世帯数		3世代世帯数	
		世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合
鎌倉市	世帯総数	68,942	100.00%	6,182	8.97%	14,594	21.17%	3,346	4.85%
	うち 夫婦のみの世帯	17,083	24.78%	-	-	-	-	-	-
	うち夫婦と子供から成る世帯	22,530	32.68%	5,404	7.84%	11,657	16.91%	-	-
都筑区	世帯総数	64,392	100.00%	10,716	16.64%	24,039	37.33%	2,472	3.84%
	うち 夫婦のみの世帯	12,889	20.02%	-	-	-	-	-	-
	うち夫婦と子供から成る世帯	29,485	45.79%	9,833	15.27%	20,935	32.51%	-	-



平成22 (2010) 年国勢調査		一般世帯数		6歳未満のいる世帯数		18歳未満のいる世帯数		3世代世帯数	
		世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合
鎌倉市	世帯総数	72,361	100.00%	6,308	8.72%	15,383	21.26%	2,587	3.58%
	うち 夫婦のみの世帯	18,146	25.08%	-	-	-	-	-	-
	うち夫婦と子供から成る世帯	22,961	31.73%	5,636	7.79%	12,692	17.54%	-	-
都筑区	世帯総数	74,792	100.00%	10,732	14.35%	26,550	35.50%	2,206	2.95%
	うち 夫婦のみの世帯	14,521	19.42%	-	-	-	-	-	-
	うち夫婦と子供から成る世帯	32,665	43.67%	9,962	13.32%	23,077	30.85%	-	-

都筑区では約3割の世帯に子どもがおり、鎌倉市を大幅に上回る。

4. 特徴が類似した都市との比較

① 女性の高学歴化が進んでいる都市との比較 (4/5)

4. 女性の仕事

- 15歳以上人口における就業者数や家事従事者数の動向をみると、鎌倉市の女性は都筑区に比べ、家事従業者の占める割合が高い。
- より詳細に女性の年齢別での就業者数や家事従事者数の動向をみると、**子育て世代(25~44歳)**においては、鎌倉市では「主に仕事」に従事する女性の比率が都筑区よりも高い。逆に**家事従事者や、パート等により家事に加えて仕事をする女性**については、**都筑区が高くなっている。**

【15歳以上人口と就業者数、家事従事者数 (平成22年国勢調査から)】

	A.総数	B.就業者						C.家事		
		就業者全体		主に仕事		家事のほか仕事		家事従事者数	Aに占める割合	
		就業者数	Aに占める割合	就業者数	Aに占める割合	就業者数	Aに占める割合			
鎌倉市	15歳以上合計	153,292	72,820	47.50%	58,835	38.38%	10,921	7.12%	30,609	19.97%
	15歳以上男性	71,563	42,793	59.80%	40,387	56.44%	907	1.27%	2,955	4.13%
	15歳以上女性	81,729	30,027	36.74%	18,448	22.57%	10,014	12.25%	27,654	33.84%
都筑区	15歳以上合計	160,910	91,660	56.96%	73,485	45.67%	14,253	8.86%	26,986	16.77%
	15歳以上男性	79,796	55,980	70.15%	53,363	66.87%	632	0.79%	1,415	1.77%
	15歳以上女性	81,114	35,680	43.99%	20,122	24.81%	13,621	16.79%	25,571	31.52%

【2~40歳代女性の人口と就業者数、家事従事者数 (平成22年国勢調査から)】

	A.総数	B.就業者						C.家事		
		就業者全体		主に仕事		家事のほか仕事		家事従事者数	Aに占める割合	
		就業者数	Aに占める割合	就業者数	Aに占める割合	就業者数	Aに占める割合			
鎌倉市	15歳以上合計	81,729	30,027	36.74%	18,448	22.57%	10,014	12.25%	27,654	33.84%
	20~24歳	3,562	1,959	55.00%	1,440	40.43%	73	2.05%	136	3.82%
	25~29歳	4,007	2,698	67.33%	2,417	60.32%	186	4.64%	518	12.93%
	30~34歳	5,140	2,892	56.26%	2,295	44.65%	431	8.39%	1,386	26.96%
	35~39歳	7,177	3,519	49.03%	2,441	34.01%	929	12.94%	2,569	35.79%
	40~44歳	6,923	3,660	52.87%	2,259	32.63%	1,329	19.20%	2,297	33.18%
	45~49歳	5,954	3,395	57.02%	1,893	31.79%	1,450	24.35%	1,792	30.10%
	25~45歳合計	23,247	12,769	54.93%	9,412	40.49%	2,875	12.37%	6,770	29.12%
	20~49歳合計	32,763	18,123	55.32%	12,745	38.90%	4,398	13.42%	8,698	26.55%
都筑区	15歳以上合計	81,114	35,680	43.99%	20,122	24.81%	13,621	16.79%	25,571	31.52%
	20~24歳	4,667	2,703	57.92%	2,026	43.41%	95	2.04%	208	4.46%
	25~29歳	5,145	3,396	66.01%	2,924	56.83%	336	6.53%	963	18.72%
	30~34歳	7,203	3,644	50.59%	2,647	36.75%	780	10.83%	2,657	36.89%
	35~39歳	10,026	4,549	45.37%	2,706	26.99%	1,674	16.70%	4,429	44.18%
	40~44歳	10,191	5,372	52.71%	2,537	24.89%	2,770	27.18%	3,811	37.40%
	45~49歳	8,070	4,932	61.12%	2,262	28.03%	2,626	32.54%	2,450	30.36%
	25~45歳合計	32,565	16,961	52.08%	10,814	33.21%	5,560	17.07%	11,860	36.42%
	20~49歳合計	45,302	24,596	54.29%	15,102	33.34%	8,281	18.28%	14,518	32.05%

5. 正規雇用

- 鎌倉市在住の雇用者のうち「正規の職員・従業員」は全体の45.47%と、一都三県の市区町村・政令市の区の中で61番目と上位に位置している。
- 一方都筑区は40.67%と169番目となっている。

【常住する雇用者の正規雇用率 (平成22年国勢調査から)】

市区町村名 (正規雇用率順)	雇用者数 (人)				正規雇用率
	総数	正規の職員・従業員	派遣社員	パート・アルバイト・その他	
1 13101 千代田区	6,390	4,284	324	1,782	67.04%
2 13362 利島村	47	31	-	16	65.96%
3 13102 中央区	21,514	14,109	1,487	5,918	65.58%
4 13103 港区	25,896	16,267	1,664	7,965	62.82%
5 13105 文京区	30,880	18,734	1,820	10,326	60.67%
6 13113 渋谷区	26,772	16,043	1,919	8,810	59.92%
7 13110 目黒区	36,609	21,182	2,589	12,838	57.86%
8 13104 新宿区	41,083	23,435	2,698	14,950	57.04%
9 13106 台東区	24,125	13,478	1,522	9,125	55.87%
10 13109 品川区	60,242	33,387	4,383	22,472	55.42%
11 14133 川崎市 中原区	38,389	20,984	2,757	14,648	54.66%
12 13402 青ヶ島村	33	18	1	14	54.55%
13 13116 豊島区	36,938	20,145	2,661	14,132	54.54%
14 13112 世田谷区	120,849	65,442	8,919	46,488	54.15%
15 12223 鴨川市	6,304	3,399	55	2,850	53.92%
16 14103 横浜市 西区	16,303	8,781	1,164	6,358	53.86%
17 13203 武蔵野市	21,572	11,617	1,412	8,543	53.85%
18 13115 杉並区	80,889	43,340	6,208	31,341	53.58%
19 12427 長南町	1,413	757	81	575	53.57%
20 13114 中野区	45,343	24,171	3,531	17,641	53.31%
61 14204 鎌倉市	24,412	11,100	1,274	12,038	45.47%
168 14118 横浜市 都筑区	30,777	12,517	1,748	16,512	40.67%
250 12230 八街市	12,349	4,344	458	7,547	35.18%
251 13223 武蔵村山市	11,006	3,766	430	6,810	34.22%
252 14401 愛川町	7,212	2,382	271	4,559	33.03%

4. 特徴が類似した都市との比較

① 女性の高学歴化が進んでいる都市との比較 (5/5)

6. 就業者数の流入・流出とまとめ

- 鎌倉市は周辺都市等に比べ相対的に昼夜間人口比率が高いが、都筑区はより拠点性が高く居住地ベース、従業地ベースの就業者数がほぼ拮抗している。
- 鎌倉市、都筑区はともに、男性については市・区外で働く人の方が多い「流出超過」となっているが、**女性については市・区内で働く就業者数が在住する就業者数を上回る「流入超過」となっており、両都市の雇用を支える存在**となっている。
- 女性の就業者数の状況を年齢別に見てみると、鎌倉市では子育て世代においては「流出超過」となっているものの、50歳代以降において「流入超過」に転じる傾向にある。一方、都筑区においては、10歳代と85歳以上以外の**全ての年代において、流入が大きくなっており、子育て世代の女性に対しても、仕事を提供していることがわかる。**
- それぞれの市・区に在住する就業者のうち、自市・区で働く就業者の割合をみると、鎌倉市の方が都筑区よりも高い割合を示している。しかしながら、**子育て層の女性についてみてみると、都筑区の方が地元での通勤率が高くなっており、職住近接が進んでいることがわかる。**
- 都筑区においては、子育て世代において、家事に従事、あるいは家事とともに仕事する女性が多く、主に仕事に従事する比率が高い鎌倉市に比べ、**子育てに専念しやすい環境**にあることがうかがえる。また、25歳から30歳代にかけて女性の就業率が低下するものの、40歳代後半以降急速に回復を見せるなど、「**子育てと仕事の両立**」が進んでいる（参照：前ページ）。
- これを支えるのが、**都筑区の雇用力**であり、住まいの近くに仕事の間や機会があることによって、**家計収入と子育ての好循環が築かれている**。また、必ずしも正規雇用にこだわるのではなく、派遣やパートなど、より柔軟な雇用形態をとる女性が鎌倉市よりも多くなっている。

【子どものいる世帯数と比率の比較 (平成17年、22年国勢調査から)】

総数 (男女)	鎌倉市の就業者数 (人)					都筑区の就業者数 (人)					女性	鎌倉市の就業者数 (人)					都筑区の就業者数 (人)				
	A. 居住地 ベース	B. 従業地 ベース	C. 市内在住・ 在勤者	B-A. 流入超過分	C./A. 市内通勤率	A. 居住地 ベース	B. 従業地 ベース	C. 市内在住・ 在勤者	B-A. 流入超過分	C./A. 市内通勤率		A. 居住地 ベース	B. 従業地 ベース	C. 市内在住・ 在勤者	B-A. 流入超過分	C./A. 市内通勤率	A. 居住地 ベース	B. 従業地 ベース	C. 市内在住・ 在勤者	B-A. 流入超過分	C./A. 市内通勤率
合計	72,820	65,047	27,359	-7,773	37.6%	91,660	91,300	32,546	-360	35.6%	合計	30,027	30,769	15,190	742	50.6%	35,680	38,096	17,808	2,416	46.7%
15歳未満	-	-	-	-		-	-	-	-		15歳未満	-	-	-	-		-	-	-	-	
15~19歳	793	952	383	159	48.3%	1,523	1,416	793	-107	56.0%	15~19歳	450	577	232	127	51.6%	747	697	391	-50	56.1%
20~24歳	3,542	3,729	1,156	187	32.6%	5,274	5,782	1,979	508	34.2%	20~24歳	1,959	2,098	645	139	32.9%	2,703	2,899	1,010	196	34.8%
25~29歳	5,517	5,505	1,481	-12	26.8%	7,462	8,419	2,205	957	26.2%	25~29歳	2,698	2,515	729	-183	27.0%	3,396	3,712	999	316	26.9%
30~34歳	6,619	6,042	1,767	-577	26.7%	9,234	10,155	2,687	921	26.5%	30~34歳	2,892	2,681	906	-211	31.3%	3,644	3,792	1,286	148	33.9%
35~39歳	8,827	7,323	2,613	-1,504	29.6%	12,626	12,372	3,945	-254	31.9%	35~39歳	3,519	3,295	1,413	-224	40.2%	4,549	4,712	2,123	163	45.1%
40~44歳	9,210	7,735	2,875	-1,475	31.2%	14,301	12,799	4,810	-1,502	37.6%	40~44歳	3,660	3,557	1,736	-103	47.4%	5,372	5,509	2,999	137	54.4%
45~49歳	8,435	7,108	2,937	-1,327	34.8%	12,920	11,168	4,402	-1,752	39.4%	45~49歳	3,395	3,391	1,838	-4	54.1%	4,932	5,096	2,800	164	55.9%
50~54歳	6,862	6,157	2,599	-705	37.9%	8,881	8,181	3,049	-700	37.3%	50~54歳	2,775	3,057	1,605	282	57.8%	3,367	3,689	3,222	322	51.6%
55~59歳	6,833	6,426	2,925	-407	42.8%	7,147	7,552	2,665	405	35.3%	55~59歳	2,720	3,116	1,768	396	65.0%	2,600	3,116	2,123	456	48.3%
60~64歳	7,284	6,568	3,458	-716	47.5%	6,317	6,876	2,644	559	38.5%	60~64歳	2,755	3,168	1,934	413	70.2%	2,200	2,899	2,123	404	51.1%
65~69歳	4,374	3,792	2,335	-582	53.4%	3,411	3,877	1,784	466	46.0%	65~69歳	1,591	1,719	1,127	128	70.8%	1,200	1,719	1,127	137	59.1%
70~74歳	2,421	2,027	1,473	-394	60.8%	1,534	1,652	884	118	53.5%	70~74歳	850	872	659	22	77.5%	492	507	325	325	64.1%
75~79歳	1,274	1,025	808	-249	63.4%	630	657	404	27	61.5%	75~79歳	433	412	336	-21	77.6%	228	238	238	238	%
80~84歳	585	445	374	-140	63.9%	288	289	211	1	73.0%	80~84歳	224	206	172	-18	76.8%	103	108	108	108	%
85歳以上	244	213	175	-31	71.7%	112	105	84	-7	80.0%	85歳以上	106	105	90	-1	84.9%	42	41	41	41	%

子育て世代の女性の
仕事に豊富にあり、
他市・他区から流入
が超過

子育て世代の女性に
関しては都筑区の方
が地元通勤率が高い

4.特徴が類似した都市との比較

②東京都からの転入が大きな割合を占める都市との比較

1. 転入の状況

- ▶ 東京特別区部からの鎌倉市への転入の状況で最も多いのは、世田谷区となっている。
- ▶ ここでは、世田谷区からの転出が多い都市に着目して、都市選択におけるライバル市と傾向の把握を行う。

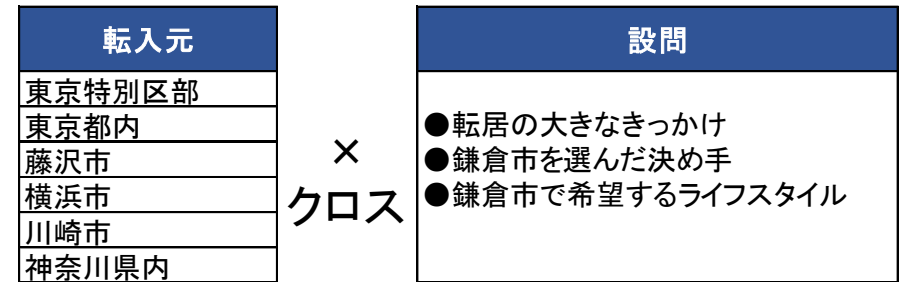
【鎌倉市への転入の状況 平成17年～平成22年（国勢調査）】

順位		総数	男	女
1	藤沢市	1,948	947	1,001
2	横浜市 栄区	1,009	521	488
3	横浜市 戸塚区	926	440	486
4	世田谷区	585	281	304
5	茅ヶ崎市	488	224	264
6	横須賀市	455	209	246
7	逗子市	427	191	236
8	横浜市 港南区	411	190	221
9	大田区	349	176	173
10	横浜市 金沢区	338	140	198
11	横浜市 磯子区	301	145	156
12	横浜市 港北区	301	153	148
13	横浜市 神奈川区	265	135	130
14	目黒区	264	120	144
15	品川区	258	117	141
16	横浜市 保土ヶ谷区	252	123	129
17	横浜市 泉区	252	131	121
18	横浜市 中区	243	112	131
19	平塚市	237	111	126
20	杉並区	224	91	133
21	横浜市 青葉区	219	101	118
22	横浜市 南区	207	100	107
23	川崎市 中原区	199	107	92
24	練馬区	181	88	93
25	大和市	177	87	90
26	横浜市 旭区	175	80	95
27	横浜市 鶴見区	170	84	86
28	渋谷区	163	66	97
29	港区	162	69	93
30	横浜市 都筑区	142	69	73

2. 都市の選択要因の把握

- ▶ 世田谷区からの転出先について、東京特別区部を除き、1都3県に限定し、ライバル市の状況を把握した。
- ▶ 「総人口に占める世田谷区から転入した人の割合」を算出し、順位付けを行ったところ、鎌倉市は0.34%と17番目に位置づけられた。
- ▶ 世田谷区からの時間を算出すると、「総人口に占める世田谷区から転入した人の割合」で鎌倉市より上位に位置づけられた市をみると、すべての都市が70分以内となっており、転出先を決める際に時間（距離）が重要な要素になっていることがうかがえる。一方、**鎌倉市までの時間は92分であり、鎌倉市より上位に位置づけられた自治体と比較しても、世田谷区からの時間（距離）は長く、距離的な側面以外で、鎌倉市は「選ばれている都市」であることがいえる。**
- ▶ ここで挙げられた都市と比べて、なぜ鎌倉市が選ばれたかの要因の分析については、統計データからは明らかにすることが難しいことから、「転入者調査」の以下の項目から、クロス集計を行うことで傾向を把握していく。

■ アンケートにおける要因の把握方法



【世田谷区からの転出の状況（東京特別区部除く）】

順位		世田谷区からの転出者数 (A)	当該市町村人口 (A)	総人口に占める世田谷区から転入した人の割合 (A/B)	世田谷区役所からの時間 (分)
1	狛江市	2,237	78,751	2.84%	32
2	調布市	3,681	223,593	1.65%	46
3	川崎市 高津区	3,096	217,360	1.42%	36
4	川崎市 宮前区	2,491	218,867	1.14%	47
5	川崎市 麻生区	1,669	169,926	0.98%	37
6	川崎市 多摩区	1,953	213,894	0.91%	40
7	川崎市 中原区	2,037	233,925	0.87%	46
8	稲城市	719	84,835	0.85%	66
9	三鷹市	1,537	186,083	0.83%	58
10	横浜市 青葉区	2,244	304,297	0.74%	52
11	武蔵野市	840	138,734	0.61%	61
12	町田市	2,466	426,987	0.58%	58
13	多摩市	813	147,648	0.55%	68
14	府中市	1,380	255,506	0.54%	58
15	横浜市 港北区	1,568	329,471	0.48%	56
16	横浜市 都筑区	877	201,271	0.44%	59
17	鎌倉市	585	174,314	0.34%	92
18	日野市	529	180,052	0.29%	82
19	相模原市 南区	803	274,364	0.29%	60
20	八王子市	1,623	580,053	0.28%	113
21	横浜市 神奈川区	575	233,429	0.25%	69
22	大和市	562	228,186	0.25%	74
23	市川市	901	473,919	0.19%	79
24	藤沢市	766	409,657	0.19%	80
25	柏市	618	404,012	0.15%	105
26	川口市	765	500,598	0.15%	74
27	松戸市	692	484,457	0.14%	85
28	船橋市	817	609,040	0.13%	92
29	さいたま市	1,576	1,222,434	0.13%	78
30	千葉市	1,044	961,749	0.11%	101

時間の算出方法は、グーグルマップにより、それぞれの役所の本庁を基準として、始点を平日の朝9時に出発する想定にした。

4.特徴が類似した都市との比較

③昼夜間人口比率・吸引力が類似している都市との比較（1/3）

2. 男女年齢階級別で吸引力が低い層

- ▶ 比較都市の中で、昼夜間人口比率が最も高い武蔵野市と、男女年齢階級別の流入者数と流出者数について比較した。
- ▶ その結果、「流入と流出の差」では、男性で「35~64歳」、女性で「40~49歳」の年齢層において、鎌倉市の「流出超過」が顕著になっている。これらの層については、鎌倉市で住み、働くという職住近接のライフスタイルが叶えられないことがうかがえる。

【従業員の流出、流入の状況（平成22年国勢調査から）】

	鎌倉市での従業員数			鎌倉市に常住する従業員数			流入と流出の差(A-B)	(特別掲載)武蔵野市の流入と流出の差
	鎌倉市以外に常住する者の数=流入数(A)	流入率	鎌倉市以外で従業する者の数=流出数(B)	流出率				
男								
合計	34,278	59.4%	42,793	70.5%	-9,786	497		
15~19歳	375	55.5%	343	55.4%	18	274		
20~24歳	1,631	64.5%	1,583	66.6%	-2	979		
25~29歳	2,990	70.6%	2,819	71.9%	82	64		
30~34歳	3,361	69.7%	3,727	75.1%	-456	-395		
35~39歳	4,028	64.3%	5,308	75.6%	-1,420	-137		
40~44歳	4,178	67.8%	5,550	78.3%	-1,512	1		
45~49歳	3,717	65.7%	5,040	76.8%	-1,429	-6		
50~54歳	3,100	62.5%	4,087	74.5%	-1,106	-96		
55~59歳	3,310	60.3%	4,113	71.0%	-924	37		
60~64歳	3,400	50.9%	4,529	65.9%	-1,252	18		
65歳以上	4,188	26.7%	5,694	51.0%	-1,785	-242		
女								
合計	30,769	47.3%	30,027	48.6%	-16	3,890		
15~19歳	577	58.1%	450	48.0%	119	461		
20~24歳	2,098	66.7%	1,959	66.2%	103	1,311		
25~29歳	2,515	66.6%	2,698	71.5%	-256	98		
30~34歳	2,681	61.6%	2,892	67.3%	-294	-145		
35~39歳	3,295	53.1%	3,519	58.4%	-306	-86		
40~44歳	3,557	47.2%	3,660	51.5%	-206	235		
45~49歳	3,391	42.9%	3,395	45.2%	-80	458		
50~54歳	3,057	45.4%	2,775	41.5%	237	357		
55~59歳	3,116	41.6%	2,720	34.6%	355	492		
60~64歳	3,168	37.0%	2,755	29.4%	362	478		
65歳以上	3,314	23.0%	3,204	25.4%	-50	231		
有配偶の女性就業者	17,663	41.2%	16,329	38.5%	987	2,511		
(再掲)うち主に仕事	7,706	51.0%	7,447	51.1%	123	989		
(再掲)うち家事のほか仕事	9,547	33.0%	8,386	25.9%	977	1,580		

男性で35~64歳、女性で40~49歳の層において、鎌倉市と武蔵野市の特徴が見られる。

武蔵野市での従業員数	武蔵野市以外に常住する者の数(A)	流入率	武蔵野市に常住する従業員数	武蔵野市以外で従業する者の数(B)	流出率
37,659	25,133	66.7%	36,375	24,636	67.7%
585	438	74.9%	301	164	54.5%
3,055	2,171	71.1%	2,011	1,192	59.3%
3,905	2,566	65.7%	3,736	2,502	67.0%
4,112	2,665	64.8%	4,437	3,060	69.0%
4,530	3,142	69.4%	4,583	3,279	71.5%
4,334	3,118	71.9%	4,257	3,117	73.2%
4,027	2,946	73.2%	3,978	2,952	74.2%
3,331	2,417	72.6%	3,378	2,513	74.4%
3,150	2,269	72.0%	3,049	2,232	73.2%
3,112	1,998	64.2%	3,021	1,980	65.5%
3,518	1,403	39.9%	3,624	1,645	45.4%
32,551	20,240	62.2%	28,203	16,350	58.0%
860	643	74.8%	393	182	46.3%
3,883	2,946	75.9%	2,538	1,635	64.4%
4,031	2,842	70.5%	3,863	2,744	71.0%
3,569	2,415	67.7%	3,678	2,560	69.6%
3,262	2,117	64.9%	3,297	2,203	66.8%
3,226	1,998	61.9%	2,953	1,763	59.7%
3,392	2,063	60.8%	2,901	1,605	55.3%
2,853	1,661	58.2%	2,477	1,304	52.6%
2,511	1,476	58.8%	1,992	984	49.4%
2,387	1,213	50.8%	1,863	735	39.5%
2,577	866	33.6%	2,248	635	28.2%
15,358	8,871	57.8%	12,653	6,360	50.3%
7,799	5,137	65.9%	6,744	4,148	61.5%
7,108	3,427	48.2%	5,420	1,847	34.1%

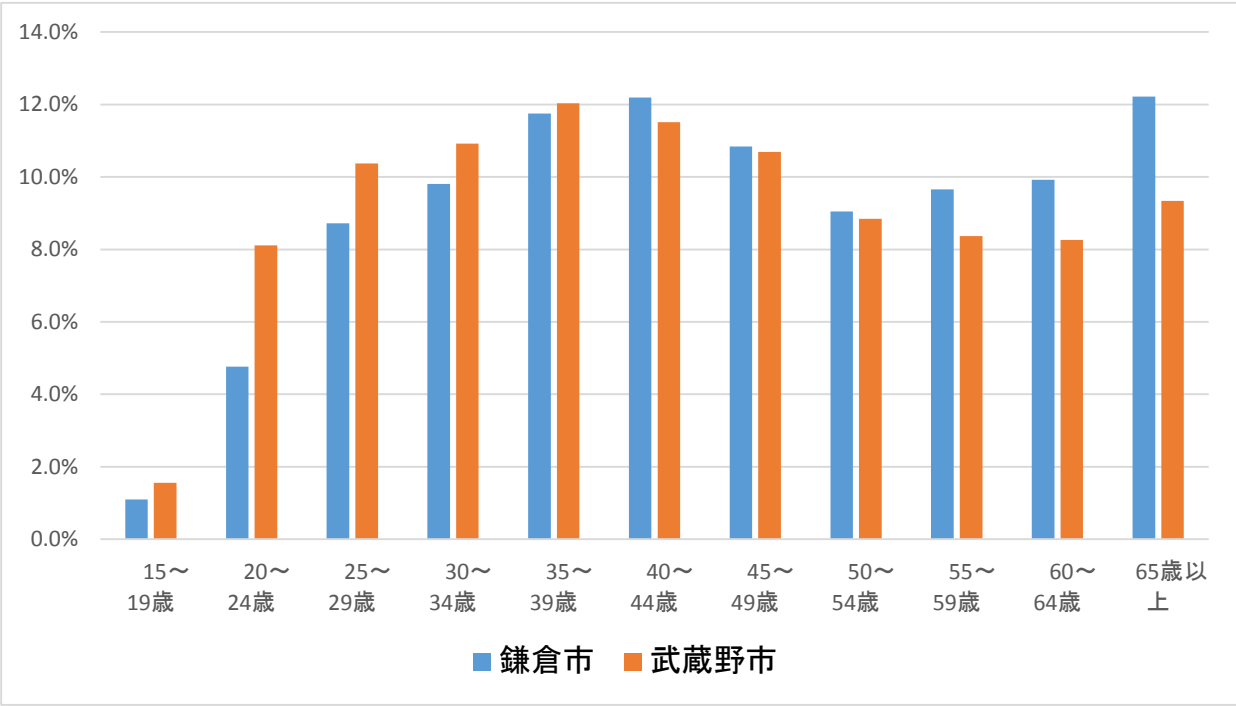
4. 特徴が類似した都市との比較

③ 昼夜間人口比率・吸引力が類似している都市との比較（2/3）

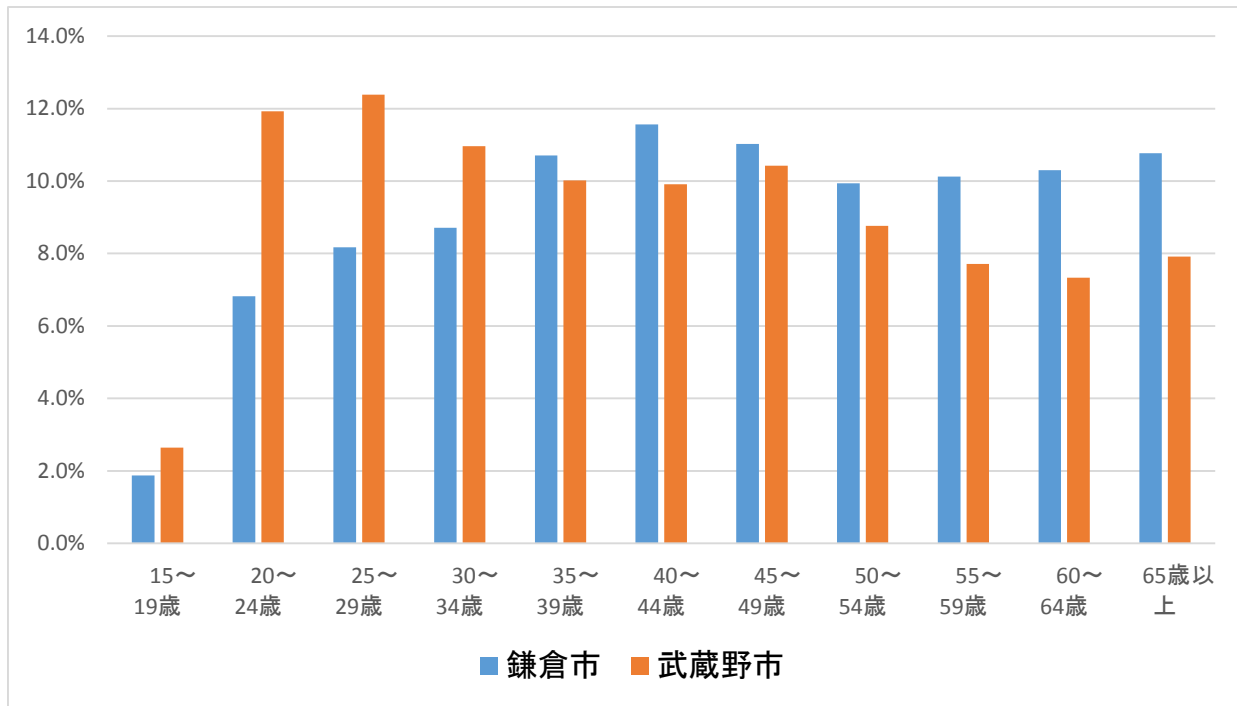
2. 就業者の年齢構成割合の男女比較

- 就業者の年齢構成割合を男女別に比べると、男性では「40歳以上」の年齢層で鎌倉市の割合が高く、年齢が上がるにつれて、その差が大きくなっている。
- 女性では「20～34歳」までの年齢層で武蔵野市の割合が高くなっているのに対して、35歳以上の年齢層で鎌倉市の割合が高くなっている。
- 就業者の年齢構成割合では、**鎌倉市の就業者割合の高齢化**が進んでいることがうかがえる。また、**その傾向は女性に顕著**になっている。

【就業者の年齢構成割合（男性）（平成22年国勢調査から）】



【就業者の年齢構成割合（女性）（平成22年国勢調査から）】



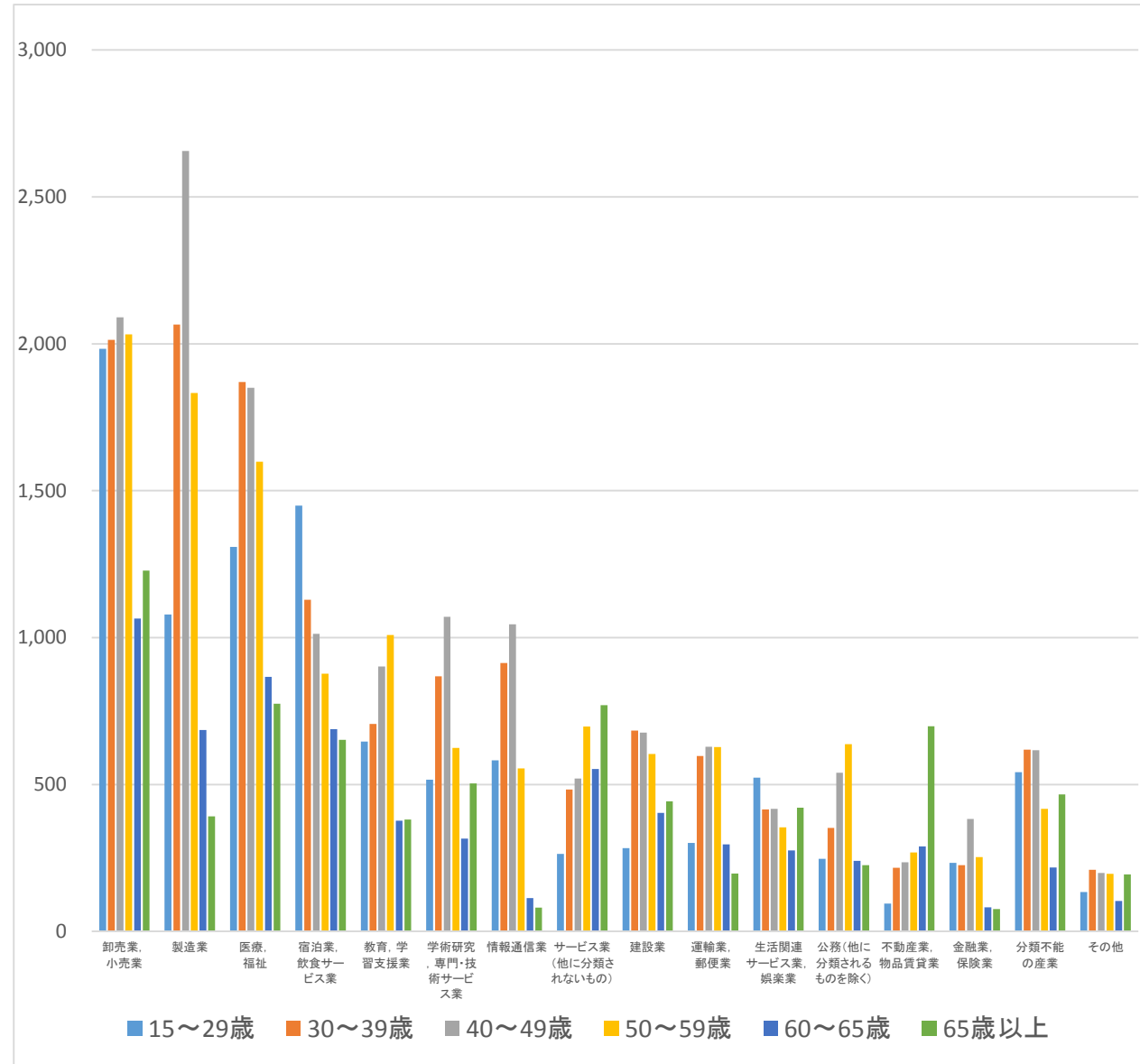
4. 特徴が類似した都市との比較

③ 昼夜間人口比率・吸引力が類似している都市との比較 (3/3)

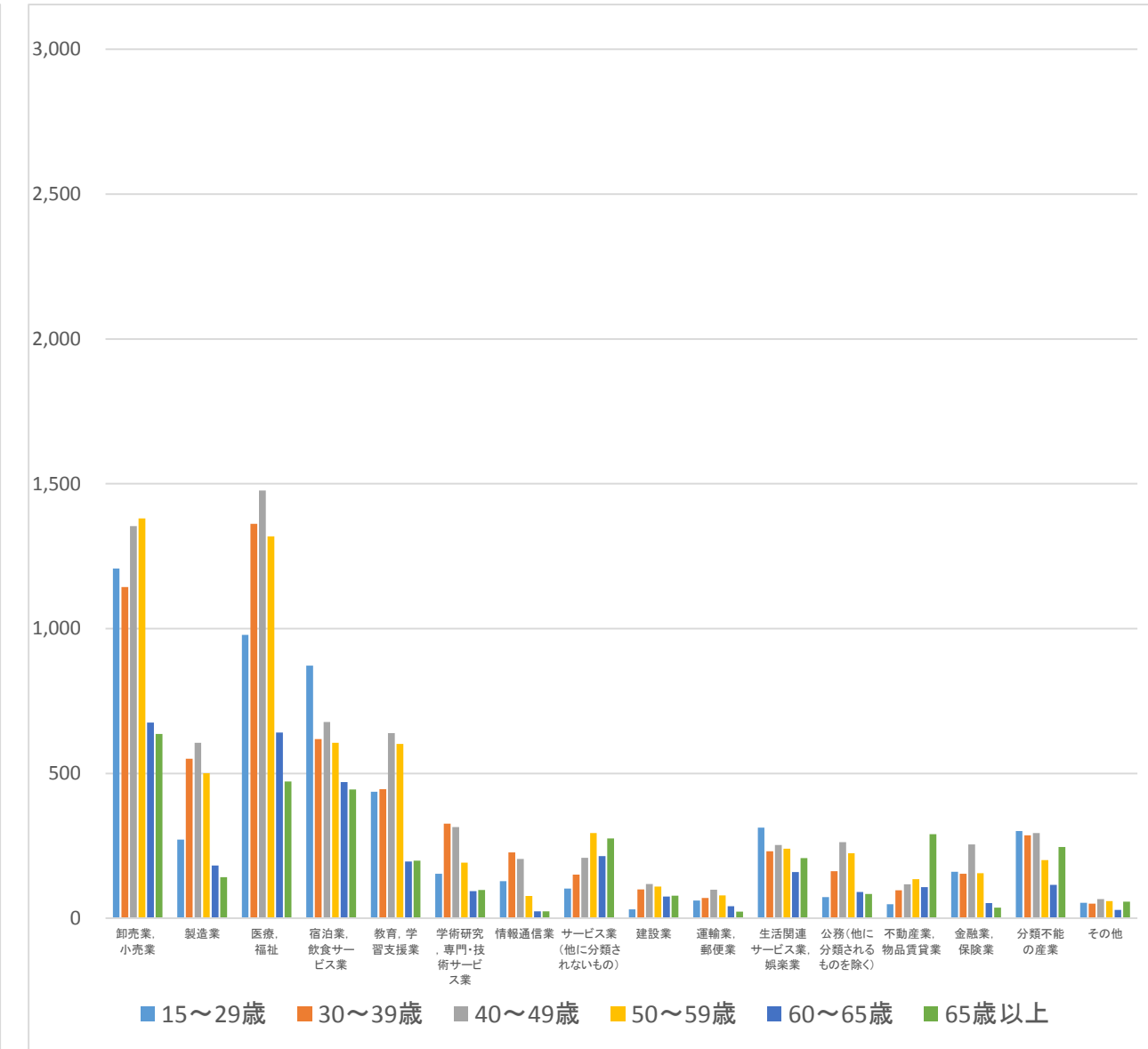
3. 産業別就業者数 (年齢階級別)

- ここでは、鎌倉市の男女年齢別の産業別就業者数を見ることで、吸引力が高い産業を考察する。
- 総数が最も多いのは「卸売業、小売業」であり、どの年齢層においても上位2位までに入っている。一方、「製造業」では「30～59歳」の年齢層の就業者が中心となっている。
- 女性では「卸売業、小売業」と「医療、福祉」がどの年齢層においても上位2位までに入っているが、「30～49歳」の年齢層で「医療、福祉」がやや多くなっている。**女性の「卸売業、小売業」と「医療、福祉」への就業者の集中**が顕著になっている。

【産業別就業者数 (総数) (平成22年国勢調査から)】



【産業別就業者数 (女性) (平成22年国勢調査から)】



4.特徴が類似した都市との比較

④まとめ（類似都市との比較からのヒント）

女性の高学歴化が進んでいる都市との比較

- ▶ 高学歴化が進んだ都市は総じて出生率が低く、東京特別区の団体をはじめとして、全国平均を大きく下回る傾向がある。
- ▶ 鎌倉市、都筑区はともに、男性については市・区外で働く人の方が多い「流出超過」となっているが、女性については市・区内で働く就業者数が在住する就業者数を上回る「流入超過」となっており、両都市の雇用を支える存在となっている。
- ▶ 女性の就業者数の状況を年齢別にみると、鎌倉市では子育て世代においては「流出超過」となっているものの、50歳代以降において「流入超過」に転じる傾向にある。一方、都筑区においては、10歳代と85歳以上以外の全ての年代において、流入が大きくなっており、子育て世代の女性に対しても、仕事を提供していることがわかる。
- ▶ これを支えるのが、都筑区の雇用力であり、住まいの近くに仕事の間や機会があることによって、家計収入と子育ての好循環が築かれている。また必ずしも正規雇用にこだわるのではなく、派遣やパートなど、より柔軟な雇用形態をとる女性が鎌倉市よりも多くなっている。

東京23区からの社会移動に関する分析

- ▶ 世田谷区からの転出の状況等を比較した結果、転出先を決める際に時間（距離）が重要な要素になっていることがうかがえる。しかし、「総人口に占める世田谷区から転入した人の割合」で、鎌倉市より上位に位置づけられた団体と比較しても、世田谷区からの時間（距離）は長く、距離的な側面以外で、鎌倉市は「選ばれている都市」であることがいえる。

昼夜間人口比率・吸引力が類似している都市との比較

- ▶ 男性で「35~64歳」、女性で「40~49歳」の年齢層において、鎌倉市の「流出超過」が顕著になっている。これらの層については、鎌倉市で住み、働くという職住近接のライフスタイルが叶えられないことがうかがえる。
- ▶ 就業者の年齢構成割合では、鎌倉市の就業者割合の高齢化が進んでいることがうかがえる。また、その傾向は女性に顕著になっている。
- ▶ 女性の「卸売業、小売業」と「医療、福祉」への就業者の集中が顕著になっている。

- 出生率の改善のためにも、**人口構造の若返り化**が必要。
- 若い世代が子育てと仕事とを両立しやすいよう、**多様な雇用形態の仕事が身近に数多くある**ことが効果的。
- 東京からの移住者にとって、本市は「選ばれている都市」であり、**鎌倉市の都市ブランドを維持・向上する**ことで、転入の流れを継続させることが出来るのではないかと。
- 男性についてはベッドタウン化が進展、女性についても若い世代は市外への流出が大きい。**子育て世代の仕事を創出し**、育児しやすい環境を整える必要があるのではないかと。

(参考)

比較都市のプロフィール (1/2)

		神奈川県					東京都			埼玉県	千葉県		茨城県	
		鎌倉市 ※1	横浜市	藤沢市	小田原市	逗子市	武蔵野市	三鷹市	多摩市	川崎市	流山市	印西市	つくば市	
A)	2010年総人口 (人)	174,314	7位	3,688,773	409,657	198,327	58,302	138,734	186,083	147,648	342,670	163,984	88,176	214,590
B)	平均年齢 (歳)	47.56	2位	43.41	42.99	45.37	47.72	43.53	42.73	43.99	43.69	43.40	41.91	40.35
C)	0~14歳人口比率 (%)	12.0	9位	13.3	13.8	12.8	12.3	10.5	11.6	12.0	13.0	13.5	14.5	15.2
D)	15~64歳人口比率 (%)	60.4	10位	66.6	66.3	63.7	59.9	69.9	69.7	67.1	66.0	65.8	69.3	68.7
E)	65歳以上人口比率 (%)	27.6	2位	20.1	19.8	23.5	27.9	19.7	18.7	20.9	21.0	20.7	16.1	16.0
F)	昼間人口 (人)	170,398	6位	3,375,330	381,834	191,520	47,297	153,267	166,284	145,569	332,876	122,308	73,910	233,183
G)	昼夜間人口比率 F)/A)	0.978	4位	0.915	0.932	0.966	0.811	1.105	0.894	0.986	0.971	0.746	0.838	1.087
H)	当地に常住する就業者・通学者数 (人)	80,731	8位	1,894,654	210,483	106,080	28,087	73,190	97,677	76,277	181,655	86,690	50,448	116,876
I)	うち当地で従業・就学 (人)	28,998	6位	1,090,050	92,645	63,167	7,327	19,227	25,280	21,939	78,015	21,964	18,139	72,302
J)	うち他市区町村で従業・通学 (人)	50,908	6位	788,272	116,048	42,616	20,630	47,405	60,671	48,458	94,115	63,309	31,866	37,815
K)	うち東京都で従業・通学 (人)	19,402	8位	470,543	32,087	6,139	6,444	42,249	52,917	38,974	33,788	28,374	12,003	7,572
L)	流出率 (%) J)/H)	63.1	6位	41.6	55.1	40.2	73.5	64.8	62.1	63.5	51.8	73.0	63.2	32.4
M)	東京通勤通学率 (%) K)/H)	24.0	6位	24.8	15.2	5.8	22.9	57.7	54.2	51.1	18.6	32.7	23.8	6.5
N)	当地で従業・通学する者 (人)	74,321	8位	1,586,149	181,070	99,547	16,761	86,038	78,320	73,912	171,108	45,461	36,351	135,002
O)	うち他市町村の常住 (人)	41,874	7位	403,872	78,697	34,122	8,270	58,365	36,989	42,641	74,864	18,730	15,982	52,838
P)	流入率 (%) O)/N)	56.3	3位	25.5	43.5	34.3	49.3	67.8	47.2	57.7	43.8	41.2	44.0	39.1
Q)	大学等進学率 (%)	51.2	2位	43.3	44.0	33.4	50.2	52.7	42.6	42.7	33.0	44.4	42.5	38.7
R)	2005年総人口 (人)	171,158	7位	3,579,628	396,014	198,741	58,033	137,525	177,016	145,877	333,795	152,641	81,102	200,528
S)	人口増加率 (%) (A) - R)/R) × 100	1.8	8位	3.0	3.4	-0.2	0.5	0.9	5.1	1.2	2.7	7.4	8.7	7.0

※1 順位は全て値の高いものから降順

(参考)

比較都市のプロフィール (2/2)

		神奈川県					東京都			埼玉県	千葉県		茨城県	
		鎌倉市 ※1	横浜市	藤沢市	小田原市	逗子市	武蔵野市	三鷹市	多摩市	川越市	流山市	印西市	つくば市	
S)	合計特殊出生率	1.19	9位	1.27	1.37	1.24	1.34	1.14	1.15	1.13	1.39	1.47	1.30	1.43
T)	生涯未婚率 (男性) (%)	19.1	8位	21.6	20.2	22.1	19.4	25.0	22.3	19.6	20.3	18.0	12.5	15.1
	生涯未婚率 (女性) (%)	13.9	3位	11.0	10.1	10.2	12.9	19.4	14.8	10.4	9.0	8.8	4.3	6.1
U)	平均初婚年齢 (男性) (歳)	32.7	-	31.4	31.2	31.0	33.3	-	-	-	-	-	-	-
	平均初婚年齢 (女性) (歳)	30.9	-	29.6	29.6	29.2	31.0	-	-	-	-	-	-	-
V)	地価公示価格 住宅地 (円/㎡)	199,500	4位	214,100	186,000	114,000	187,200	476,900	357,200	185,600	130,700	121,600	40,200	64,800
W)	地価公示価格 商業地 (円/㎡)	419,000	4位	518,000	377,200	228,300	339,000	1,323,500	698,800	389,600	308,100	145,800	102,500	142,500
X)	着工新設住宅戸数 (戸)	1,405	8位	27,548	3,642	1,376	400	1,412	1,702	716	3,168	1,910	499	2,712
Y)	床面積の合計 (㎡)	125,569	8位	2,201,859	292,262	127,512	37,650	115,042	131,489	59,322	292,659	162,560	55,108	239,908
Z)	人口千人当り住宅着工件数 (戸)	8.1	7位	7.5	8.9	6.9	6.9	10.2	9.1	4.8	9.2	11.6	5.7	12.6
AA)	所得割の納税義務者数 (市町村民税) (人)	82,927	7位	1,763,867	196,594	89,495	27,568	73,347	90,144	69,553	158,237	79,227	40,663	96,117
AB)	課税対象所得 (市町村民税) (千円)	387,807	5位	6,999,650	758,191	292,397	120,437	369,038	392,963	256,179	518,782	288,544	148,775	369,447
AC)	一人当り課税対象所得 (市町村民税) (千円)	4,676	2位	3,968	3,857	3,267	4,369	5,031	4,359	3,683	3,279	3,642	3,659	3,844
AD)	人口の再生産力指数※2	0.77	11位	0.87	0.88	0.80	0.76	0.84	0.87	0.84	0.85	0.89	0.90	0.96

※1 順位は全て値の高いものから降順

※2 社会保障・人口問題研究所に準拠しつつ、社会移動をゼロと想定した2040年の推計人口/2010年の人口で除した指数